青森県小中学校教頭会会報　第114号

あおもり

目　次

１．巻頭言 …… 1
２．令和４年度青森県小中学校教頭会第１回理事研修会が開かれる … 2
３．会長挨拶 …… 3
４．令和４年度青森県小中学校教頭会第１回専門委員会組織会が開かれる … 4
５．各支部組織と活動計画 …… 5
６．各支部会員名簿 …… 17
７．令和３年度退職者名簿 …… 23
８．令和３年度途中昇任・異動者名簿 …… 23
９．青森県小中学校教頭会本部役員名簿 …… 24
10．支部選出役員名簿 …… 24
11．理事（各支部長・各支部事務局長）名簿 …… 25
12．令和４年度青森県小中学校教頭会行事予定 …… 26
13．令和４年度全国・東北地区教頭会関係行事 …… 26
14．編集後記 …… 26

巻頭言

『できない』を 『できる』に変える　私たち

下北小中学校教頭会　会長　横　濵　慎　一

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら迎える新年度も，３度目となりました。各校とも，ピカピカの新一年生と新任の教職員を迎え，慌ただしい中にも希望と期待に溢れ，スタートしたことと思います。今年度は３年ぶりに行動制限のないゴールデンウイークとなりましたが，学校生活においては，朝の検温，マスク着用，３密の防止，手洗いや手指の消毒等，感染拡大防止のために油断できない日々が続いています。

さて，新学習指導要領では，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推奨されています。変化が激しく，先行きの不透明な時代の中，未来社会を担う子どもたちに育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の３つの柱に整理し，社会との連携・協働のもと，よりよい学校教育の実現を目指しています。そのために，組織的・計画的に教育活動の質の向上を図っていくカリキュラム・マネジメントの重要性が示されています。

しかし，実際の教育現場では，学力の向上，いじめや不登校児童への対応，特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制づくり，ＧＩＧＡスクール構想，保護者対応等，様々な課題や問題を抱えています。校長のリーダーシップのもと，全教職員による組織的な対応が求められますが，一朝一夕に解決するものではありません。

他にも，働き方改革，体罰やハラスメント等の不祥事防止，教職員不足等，教育を取り巻く課題は山積しています。特に，教員の長時間勤務の実態は依然として深刻な状況です。平成31年１月に中央教育審議会で取りまとめられた「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」の答申では，教員のこれまでの働き方を見直し，日々の生活の質を豊かにすることで人間性を高め，効果的な教育活動が行えるようにすることが示されています。そのためには，限られた時間の中で最大の効果を上げる学校経営の在り方が重要と考えます。

さらに，自然災害への危機管理を改めて考えさせられたのが，昨年８月の集中豪雨です。下北ではこの集中豪雨により甚大な被害（浸水・橋の崩落・土砂崩れ等）があり，国道279号線の一部が一時通行不能となりました。交通が遮断されたことにより，地域住民の生活が脅かされるとともに，学校関係者にも大きな影響がありました。

職員室にある私の机上には，「『できない』を『できる』に変える　私たち」という標語が記された卓上用のぼり旗が飾られています。その標語は，令和２年度，本校の教育目標である「夢に挑戦　Try My Best」に関連し，全校児童を対象に実施された「夢・挑戦標語コンクール」において，児童・保護者・教職員・地域の方々の投票により，最優秀賞を受賞したものです。

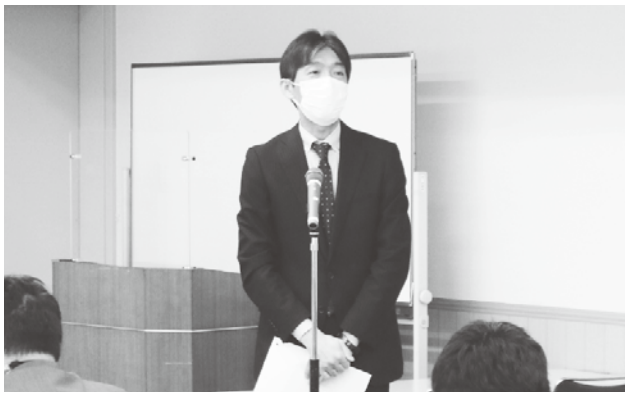
新学習指導要領の全面実施により学校教育の改善が求められる中，学校が抱える課題は複雑化・多様化しています。その中で，『できない（学校課題，弱み）』を『できる（教育目標達成，改善）』に変えるため，限られた人，物，お金，時間，情報等をマネジメントし，「チーム学校」として効果的に教育活動を進めることが重要です。教頭としての責任の重さを感じながら，①校長の経営方針の具現化と教職員一人一人の参画意識の高揚，②各主任を中心とした組織体制づくりと活性化，③ＯＪＴによるキャリアステージに応じた学習指導・生徒指導・危機管理能力の育成，④家庭・地域・関係機関との連携の強化，などを意識して日々の職務にあたっていますが，思うようにいかないことも多々あります。しかし，『できない』を『できる』に変えることが，子ども，そして私たち教職員一人一人の幸せに繋がることと信じ，これからも一歩ずつ前へ進んでいきたいと思います。

令和４年度
青森県小中学校教頭会
第１回理事研修会が開かれる

去る５月18日(水)，遠くには雪解けが進む八甲田山，眼下には田植えの準備が進む水田を臨み，青森市荒川の青森県総合社会教育センター第１研修室において，第１回理事研修会が開かれました。

青森県小中学校教頭会本部役員の方々や，県内の理事，常任理事，研究部，調査部，広報部の皆様がご参集くださいました。

第１回理事研修会は，石川副会長による開式の言葉の後，目時会長の挨拶で始まりました。



石川副会長開式の言葉

目時会長挨拶

続いて，議長選任となりましたが，会則第８条に基づき目時会長に一任となり，会長が議長を務めることになりました。

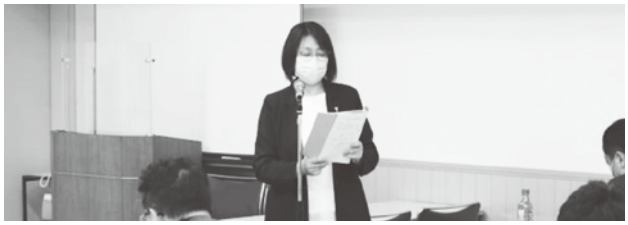
協議は，報告事項として，令和３年度の庶務，会計監査，決算等の報告がありました。また，協議事項としては，会則審議，役員改選が行われました。今年度，会則についての変更はなく，会則９条に基づきすぐに役員の改選に移りました。役員は，事務局一任となり，任期満了となる目時会長を事務局次長に，髙坂副会長を新会長とする事務局案の提示後，承認されました。

令和４年度役員一同

髙坂新会長（左）と太田新副会長（右）

新役員紹介後，髙坂新会長が議長を務め，令和４年度事業計画，予算について審議しました。

予算審議では，二唐事務局長より，今年度７月28日(木)・29日(金)に岩手県で開催される第64回全国公立学校教頭会研究大会（兼東北地区小中学校教頭会研究大会）について，東北ブロックは参集しての参加，東北ブロック以外の都道府県はオンライン参加のハイブリッド大会であることが報告されました。これを受け，予算の「旅費・大会参加費」が479,000円増額となることが示され，承認されました。



二唐事務局長による事務連絡

新型コロナウイルスのオミクロン株による感染者数の高止まりが減少に転じ，ワクチン接種の効果により重傷者数の増加が見られないことから，コロナ禍３年目にして，一部ブロックではあるものの全国大会を参集形式で実施できる見込みであることに，各支部の役員の誰もが喜びを感じるとともに，充実した大会となることを祈念したことと思います。

会長挨拶

青森県小中学校教頭会
会長　髙　坂　隆　幸
青森市立荒川小学校

今年度，青森県小中学校教頭会会長を仰せつかることになりました。各支部教頭会の会員の教頭先生方のお力添えをいただきながら，その責務を果たしていきたいと考えております。

さて，５月25日に，教育未来創造会議「第一次提言」を受けた，これからの大学に関する文部科学大臣メッセージが発出されています。

その中で,「我が国の未来を切りひらくためには,大学を起点にして大胆に構造転換を図ることが必要です。」と述べています。そして,文部科学大臣は,次の２つのことを強く訴えています。１つ目は,「現状では大きく不足している，理系の学修を行うための大学の受け皿を抜本的に拡充すること。」です。２つ目は,「とりわけ女性の皆さんが理系の分野で大きく活躍していただける社会を構築すること。」です。

また，青森市教育研修センター主催の教頭研修講座で，元文部科学副大臣，前文部科学大臣補佐官の鈴木寛氏の講義を受ける機会がありました。

その中で，次の４つのことが印象に残っています。「2012 年以降,ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査（PISA)の結果から,数学と科学は世界一といっていい。この才能が開花すれば，日本はＡＩ時代をリードできる。」「日本人は，経済成長の反面,実感として豊かさを感じていない。世界はウェルビーイング（訳：幸福な状態等）を重視している。」「Society5.0時代に求められる人材育成として，文理分断からの脱却がある。」「学校教育におけるＩＣＴ活用の一番の利点は，一人ひとりの児童生徒と対応できることだ。」

文部科学大臣メッセージと鈴木寛氏の講義から,私たち教職員は，国家戦略の中での教育と一人ひとりに対応した個人を幸福にする教育の両面が求められていることが分かります。

今年度の教育活動も，上記の課題も踏まえ，新型コロナウィルスと向き合いながらの取組が続きます。まだまだ活動に制限がありますが,その中で,それぞれの学校課題を解決していく必要があります。本教頭会の活動が，各支部や会員の教頭先生方にとっての一つの指針となるよう，また，子どもたち,先生方,保護者,地域の方々のウェルビーイングの向上に寄与できるよう会員の教頭先生方の御尽力をお願いします。

今年度は，全国公立学校教頭会研究大会岩手大会が開催されます。東北地区教頭会としても，大会参加や大会運営等において，微力ながら協力していければと考えております。また，東北地区の会員は参集での参加になっていますので，各支部の参加者や分科会の提言者は，様々な情報交換・情報共有をし，各支部・各学校に還元してくださるようお願います。

ここで，東北地区小中学校教頭会のこれまでの活動について情報提供いたします。

東北地区小中学校教頭会第１回理事研修会が,令和４年５月26日，岩手県盛岡市立下橋中学校において，参集で開催されました。昨年度は，青森県が東北地区小中学校教頭会理事研修会の担当県で，年２回の東北地区理事研修会をオンラインで実施したので，参集参加での協議や情報交換は,とても意義深いものを感じました。青森県からは,令和３年度東北地区小中学校教頭会研究大会青森大会に関するアンケート結果を紹介しました。発表方法や発表内容，運営や準備等について，多くの好意的な感想をいただきました。また，情報交換の中で，一番盛り上がったのは，教職員の多忙化解消です。各県とも同じような状況で，勤務内容が減らない中，時間外勤務もあまり減っていないとのことでした。

最後に，会員の教頭先生方におかれましては,御自身の健康にも留意しながら，働きやすい環境の構築，職務の効率化等，教職員全体で多忙化解消に努めていただくことをお願い申し上げ，挨拶といたします。

令和４年度
青森県小中学校教頭会
第１回専門委員会組織会が開かれる

５月18日(水)青森県総合社会教育センター２階において，青森県小中学校教頭会の研究委員会，調査委員会，広報委員会の三つの委員会に分かれ，第１回専門委員会組織会が開かれました。

各支部から，研究委員，調査委員，広報委員の皆様に御参集いただき，各支部委員の確認や今年度の事業計画案についての審議等が行われました。

第12期全国統一研究主題
（令和２年度～令和４年度）
『未来を生きる力を育む　魅力ある学校づくり』
キーワード：自立・協働・創造

１．研究委員会

【松浦巨樹委員長（青森市立横内中学校合子沢分教室)】
- 支部委員確認
- 事業審議
- 研究集録について（「あすなろ」第55集）

松浦委員長（左）の進行で始まった研究委員会

研究委員会の審議の様子

２．調査委員会

【安田博文委員長（青森市立泉川小学校)】
- 支部委員確認
- 全公教からの基本調査
- 県教頭会独自の調査
- 事業審議

安田委員長の進行で始まった調査委員会

調査委員会の審議の様子

３．広報委員会

【柴田幸一委員長（青森市立新城小学校)】
- 支部委員確認
- 昨年度会報111号，112号，113号の活動反省及び改善点について

柴田委員長（左）の進行で始まった広報委員会

広報委員会の審議の様子

青森市小支部

組織と活動計画

広報委　柴田幸一

４月14日(木)，青森県総合社会教育センターにおいて青森市小学校教頭会総会を開催し，今年度の役員及び事業計画を決定しました。

１．組織（会員42名）

⑴　支部役員

会長	髙坂隆幸	荒川小
副会長	工藤あゆみ	莨町小
	太田　純	大野小
事務局長	奥崎健二	油川小
事務局	三上功大	北小
	東　真史	沖館小
	逢坂英人	金沢小
	岩森美代子	東陽小
	水谷和憲	女鹿沢小
監事	津嶋一史	三内西小
	徳差　豪	佃小

⑵　支部委員会

調査委員長	安田博文	泉川小
研究委員長	鷲尾　司	新城中央小
広報委員長	柴田幸一	新城小

※調査委員長及び広報委員長は，県小中学校教頭会各専門委員会委員長と兼任。

⑶　県小中学校教頭会役員

会長	髙坂隆幸	荒川小
副会長	太田　純	大野小
幹事長	松尾浩昭	浜館小
幹事	木村武紀	浪打小
理事	髙坂隆幸	荒川小
	奥崎健二	油川小

⑷　諸団体関係

市小教研副会長	工藤あゆみ	莨町小
市生指協副会長	太田　純	大野小

⑸　地区協議会

青森市の42校を６地区に分け，地区に共通する課題等の情報交換をし，効率的な学校運営の在り方について協議する。

２．活動計画

○主な事業（予定）

4．14　市教頭会定期総会
5．10　第１回定例研修会
6．　3　第２回定例研修会
7．　1　第３回定例研修会
9．14　第４回定例研修会
10．21　第５回定例研修会
12．　1　第６回定例研修会
2．　2　第７回定例研修会
3．　3　第８回定例研修会

３．研究の概要

⑴　全体研究テーマ

「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」

⑵　研究の基本目標

①教育理念に基づく学校教育の実現
　特色ある学校づくりを展開し，生きる力を育む学校教育の実現を目指す。

②副校長・教頭としての力量の向上
　広い視野に立って学校運営が行えるよう，学校教育に対する見識を深める。

③学校の社会的役割の推進
　国民の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。

⑶　研究に対する取り組み（研究の方法）

「全体研修」と「課題研究」を行う。

①全体研修は，研修委員会が中心となり，今日的課題及び実務に関する研修を３回に分けて行う。

②課題研究は，研究委員会が中心となり，課題解決に向けた研究を進める。

今年度も研究組織を，「研究委員会」と「研修委員会」とし，２つの柱で研究を進めていくこととした。今年度の課題研究は，第12期の研究の３年次として，昨年度明らかとなった課題に対しての解決策を探っていくこととする。

青森市中支部

組織と活動計画

広報委　工 藤 雅 人

去る４月14日(木)，青森県総合社会教育センターにおいて総会を開催し，今年度の役員及び事業計画等を決定した。

１．組織（会員21名　＊正会員20名，準会員１名）

⑴　市中学校教頭会

会　　長	高 瀬 一 元	佃　中
副 会 長	佐 藤 由 孝	荒川中
副 会 長	里 村 裕 歳	横内中
研 究 部 長	木 村 文 俊	甲田中
調査研究部長	相 馬 和 実	古川中
広 報 部 長	工 藤 雅 人	新城中
事 務 局 長	熊 澤 健 一	東　中
事務局・会計	横 山 尚 子	戸山中

⑵　県小中学校教頭会

副 会 長	石 川　慎	西　中
幹　　事	加 福 欣 克	北　中
研究委員長	松 浦 巨 樹	横内中合子沢分教室
事務局次長	目 時 聖 児	沖館中

２．事業計画

月	日	曜日	事　業　名	場　所
4	14	木	総会・第１回理事研修会	県社セ
4	14	木	第１回研修会	〃
5	26	木	第２回理事研修会	市研セ
6	24	金	第２回研修会	〃
8	25	木	第３回理事研修会	〃
9	6	火	第３回研修会	〃
10	6	木	第４回理事研修会	〃
10	28	金	第４回研修会	〃
11	9	水	第５回理事研修会	〃
11	24	木	第５回研修会	〃
2	1	水	第６回理事研修会	〃
2	17	金	第６回研修会	〃
３月中旬			臨時役員会	会長校

３．本年度の研究計画

⑴　研究主題

『子どもや保護者・地域の人々に信頼される次世代の学校づくりと教頭の関わり』

～個々の教職員の活動が有機的に結びつく組織・運営による，持続可能な取組を目指して～

⑵　研究のねらい

今期（第12期）の研究主題「子どもや保護者・地域の人々に信頼される次世代の学校づくりと教頭の関わり」について，３年計画による調査・研究・考察・整理を通して，教頭として果たすべき役割を明らかにすること。

⑶　研究内容（３年計画）

ア　令和２年度

「緊急事態における学校運営体制の構築～新型コロナウイルス感染症への対応～」

イ　令和３年度

「学校教育目標の具現化に向けた教育活動と組織運営の在り方」

ウ　令和４年度

「学び続ける教員を目指した教員研修の充実」

⑷　研究の概要

ア　会員を３班に分け，班ごとに調査項目の内容（次の㈠～㈢）や研究の進め方を検討，決定する。

㈠　主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を実現するためのＩＣＴ活用の推進と教頭の役割

㈡　新たな課題に対応するための実践的指導力や業務遂行能力を高める研修の推進と教頭の役割

㈢　学校運営への参画意識を高める現職教育の推進と教頭の役割

イ　視点に基づいた調査を実施し，実態，運営上の課題，工夫，教頭の関わり方等をまとめる。

ウ　各班で実践事例や意識調査をもとに，班長が中心となって教頭の役割についてまとめる。

エ　会員全員で検討し，問題解決に向けての方向性を探る。

オ　講師を招き，研修会を実施する。

弘前地区小支部

組織と活動計画

広報委　沖 島 貴 久

去る４月15日(金)，弘前地区小学校教頭会は新会員12名を迎え，弘前市総合学習センターで総会・研修会を開催し，今年度の役員及び事業計画などを決定しました。

１．組織（会員34名）

【地区教頭会】

会　　長	三ツ橋　一　弘	岩木小
副 会 長	工　藤　直　樹	致遠小
	小山内　早　苗	朝陽小
監　　事	相　澤　純　子	東目屋小
	宮　本　隆　嘉	和徳小
事 務 局	工　藤　貴　士	千年小
	斉　藤　雅　子	大成小
研究部長	佐　藤　信　孝	船沢小
企画研修部長	猪　股　　健	西　小
理　　事	佐　藤　信　孝	船沢小
	工　藤　直　樹	致遠小
	村　元　　治	福村小
	工　藤　雅　督	豊田小
	田　澤　安　昭	堀越小
	工　藤　武　久	文京小
	工　藤　貴　士	千年小
	相　澤　純　子	東目屋小
	宮　本　隆　嘉	和徳小
	沖　島　貴　久	城西小
	小山内　早　苗	朝陽小
	森　谷　卓　生	桔梗野小
	宮　崎　研　也	石川小
	猪　股　　健	西　小
	須　藤　育　生	松原小
	斉　藤　雅　子	大成小
	三ツ橋　一　弘	岩木小
	佐　藤　志保子	常磐野小

【県教頭会】

理　　事	三ツ橋　一　弘	岩木小
	工　藤　貴　士	千年小
研究委員	佐　藤　信　孝	船沢小
調査委員	田　澤　安　昭	堀越小
広報委員	沖　島　貴　久	城西小

２．事業計画

期　日	事　業　名	場　　所
4/15　金	総会・研修会	学習センター
4/22　金	第１回理事研修会	学習センター
5/10　火	第１回研究部研修会	学習センター
6/ 3　金	６月全体研修会①	中央公民館 相馬館長慶閣
8/18　木	第２回研究部研修会	学習センター
9/16　金	小中教頭会合同研	中央公民館 相馬館長慶閣
12/ 2　金	12月全体研修会②	学習センター
12/13　火	第３回研究部研修会	学習センター
1/19　木	第２回理事研修会	学習センター
1/26　木	第４回研究部研修会	学習センター
2/10　金	２月全体研修会③	学習センター
3/27　月	第3回理事研修会・監査会	学習センター

※全国大会関連

7/28・29　令和４年度全国公立学校教頭会研究大会岩手大会

３．研究の概要

⑴　研究課題

第１課題　「教育課程に関する課題」

⑵　研究主題

「社会に開かれた教育課程実現のための教頭の関わり」

～コミュニティ・スクールに関する研究を通して～（３年次）

⑶　研究のねらい

各校における，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の実態把握に関する調査研究から，現状と課題を捉え，社会に開かれた教育課程実現のための教頭の関わり方について明らかにする。

⑷　研究内容（３年次）

・１年次の調査及び２年次の研究で明らかになった課題を基にテーマを設定し，会員の実践発表会を行う。また，発表に対する研究協議を通して課題についての理解を深める。

・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を生かした教育課程の実現に向けた今後の在り方に関する教頭の意識，知識・理解の向上。（研修会の実施）

弘前市中支部

組織と活動計画

広報委　工 藤 暢 之

去る４月５日(火) 弘前市中学校教頭会は，弘前市中学校教頭会総会・研修会を開催した。内容については，令和３年度事業報告・会計監査報告に続き，令和４年度の役員，行事予定と研修計画について話し合い，今年度の組織及び事業計画を決定した。

今年度の定期異動では，河島勝行先生が裾野小学校，山本正弘先生が朝陽小学校，岩渕智恵先生が船沢中学校の校長にそれぞれ採用された。また，新会員は３名で，第五中学校に成田茂樹先生，裾野中学校に三上剛司先生，石川中学校に前田達哉先生がそれぞれ赴任された。

１．組織（会員17名）

会　　長	後藤光生	第一中
副会長	葛原秀人	津軽中
	岩間一人	新和中
事務局	千葉暁生	船沢中
〃	丹藤博之	附属中
教頭会監事	須郷祐一	第三中
〃	三上剛司	裾野中
県教頭会理事	後藤光生	第一中
〃	千葉暁生	船沢中
県教頭会調査委員	三上哲矢	北辰中
広報委員	工藤暢之	東目屋中
研究委員長	三上俊英	相馬中
研究委員	成田茂樹	第五中
研究委員	境　義一	第二中
研究委員	奈良篤志	第四中
中教研副会長	後藤光生	第一中
中教研監事	千葉暁生	船沢中
中体連監事	境　義一	第二中
学校保健会理事	棟方貴文	東　中
中文連監事	前田達哉	石川中
市連ＰＴＡ監事	相馬秀樹	常盤野中
学校事務の学校間連携推進協議会担当	工藤慎也	南　中

２．事業計画

4. 5　弘前市中学校教頭会総会・研修会，歓送迎会（歓送迎会は中止）
4.22　弘前市中学校教頭会定例研修会①
5.13　弘前市中学校校長・教頭合同研修会
5.18　県小中学校教頭会第１回理事研修会・専門委員会組織会・研修会
7. 6　弘前市中学校教頭会定例研修会②
7.28~29　全国公立学校教頭会研究大会岩手大会
8. 5　県小中学校教頭会夏季研修会
8.24　弘前市中学校教頭会定例研修会③
9.16　地区小・中学校教頭会合同研修会
10.19　弘前市中学校教頭会定例研修会④
11.17　弘前市中学校教頭会定例研修会⑤
12. 7　県小中学校教頭会第２回理事研修会及び冬季研修会（理事・専門委員会）
2.22　県小中学校教頭会第３回理事研修会
2.28　弘前市中学校教頭会定例研修会⑥

３．研究の概要

⑴　研究課題

第１課題

「教育課程に関する課題」についての研究

⑵　研究主題

学校課題を捉え，それを解決する教育課程はどうあればよいか

⑶　研究のねらい

各校の置かれている状況を踏まえ，保護者や地域の声を生かした社会に開かれた教育課程，学校改善を推進し，生徒の豊かな人間性と創造性を育むために，教頭として，どのように関わればよいかを明らかにする。

⑷　研究計画（三年次）

研究のまとめ

①各校の生徒，保護者や地域の方々の意識の変化についての調査

②教頭の役割や関わり方についてのまとめ【提言】

八戸市小支部

組織と活動計画

広報委　舘　朋美

今年度の八戸市小学校教頭会は，５月31日に第１回定例研修会を開催し，研修組織編成や研究部毎の研修計画の協議等を行った。会員は，新会員13名を迎え，42名でスタートした。

１．組織

会長	小笠原　一　彦	白銀小
副会長	熊　谷　　一	青潮小
〃	中　村　雅　人	旭ヶ丘小
〃	淡　路　浩　志	図南小
事務局長	古　舘　直　樹	城下小
副事務局長	皆　川　智　希	吹上小
〃	松　田　典　孝	金浜小
庶務	階　上　高　広	西白山台小
会計	種　子　麻佐子	多賀台小
〃	松　倉　良　子	豊崎小
〃	戸　舘　典　子	南郷小
監事	権　代　一　徳	湊　小
〃	髙　橋　正　之	城北小
〃	石　岡　茂　樹	白銀南小
研究部Ⅰ部長	橋　本　博　子	三条小
副部長	田名部　純　一	大久喜小
〃	石　丸　昌　克	下長小
研究部Ⅱ部長	大　江　雅　之	中居林小
副部長	根　城　善　直	江陽小
〃	嶋　　満　昭	日計ヶ丘小
研究部Ⅲ部長	舘　　朋　美	町畑小
副部長	若　林　　保	多賀小
〃	山　本　光　晴	田面木小
県理事	小笠原　一　彦	白銀小
〃	古　舘　直　樹	城下小
県研究委員	橋　本　博　子	三条小
県調査委員	大　江　雅　之	中居林小
県広報委員	舘　　朋　美	町畑小
全公教研究委員	橋　本　博　子	三条小

２．研究の概要

⑴　研究主題（３年次／３年計画）

「地域とともに子供を育てる学校づくりのための教頭の役割」

～地域密着型教育の推進を通して～

⑵　研究のねらい

各校の実態調査及び考察等を通して，「地域とともに子供を育てる学校づくりのための教頭の役割」を明らかにする。

⑶　研究体制

全体研究の他，分科会毎に研究に取り組む。

研究部Ⅰ	「地域とともに子供を育てる学校づくりのための教頭の役割」 ～地域密着型教育の推進を通して～
研究部Ⅱ	「教職員の危機管理意識の高揚のための教頭の役割」 ～コロナ禍における新しい生活様式と教育活動の共生を目指して～
研究部Ⅲ	「効率的で働き甲斐のある職場環境を醸成するための教頭の役割」 ～教頭から始める働き方改革～

３．主な事業計画

4.　5	小学校教頭会第１回役員研修会（資料のみ）
4. 15	小・中学校教頭会合同研修会 （小・中別で実施）
5. 17	小学校教頭会第２回役員研修会
5. 31	小学校教頭会第１回定例研修会
9.　1	小学校教頭会第３回役員研修会
9.　8	小学校教頭会第２回定例研修会
10. 11	小学校教頭会第４回役員研修会 小学校教頭会第３回定例研修会
11. 17	小学校教頭会第５回役員研修会
11. 25	小学校教頭会第４回定例研修会
1.　6	小学校教頭会第６回役員研修会 小学校教頭会　冬期研修会
1. 20	小・中学校教頭会第２回合同研修会
2. 22	小学校教頭会　解散会
3. 29	小学校教頭会　監査会・第７回役員研修会

八戸市中支部

組織と活動計画

広報委　松 倉 知 秀

八戸市中学校教頭会は，今年度新たに６人の新会員を迎えた。４月15日に組織会を行い，昨年度の庶務・会計報告等及び今年度の事業計画等の審議を行い，下記の組織により，調査・研究・広報の３分科会に分かれて活動することを確認した。

また，６月10日には，第１回教頭研修会を開催し，八戸市教育委員会学校教育課長熊谷誠二様から教職員の人事評価に関する説明を受けた後，「未来の学校を構想する」のテーマで八戸市教育委員会教育指導課ＳＳＷＳＶ（前八戸市中学校校長会会長）小笠原徹様からご講話をいただき，研修を深めた。

１．組織

○会　　長	髙 橋 英 臣	第二中
副 会 長	佐々木 克 昌	江陽中
〃	釜 石 潤	鮫 中
監　　事	田 中 静 子	湊 中
〃	柳 谷 貴 広	白山台中
○調 査 部 長	鈴 木 浩 司	東 中
副 部 長	梅 村 光 江	明治中
部　　員	永 井 斉 孝	三条中
	須 藤 修 生	島守中
○研 究 部 長	鈴 木 悟	根城中
副 部 長	三 浦 勝 利	第三中
部　　員	長者久保希史子	北稜中
		他４名
○広 報 部 長	松 倉 知 秀	白銀南中
副 部 長	森 外 勇 一	小中野中
部　　員	大 下 毅	白銀中
	佐 藤 功	市川中
○事 務 局 長	川 村 隆 憲	第一中
副事務局長	堀 合 貴	長者中
〃	森 永 洋 行	南浜中
事務局会計	尾 崎 元 子	豊崎中
○県 理 事	髙 橋 英 臣	第二中
〃	川 村 隆 憲	第一中
○県調査部員	鈴 木 浩 司	東 中
○県研究部員	鈴 木 悟	根城中
○県広報部員	松 倉 知 秀	白銀南中

２．研究計画

○研究主題（３年次／３年計画）

小中連携を生かした生徒の学ぶ意欲を高める工夫
～生徒の学ぶ意欲を高める工夫を通して～

○研究のねらい

「学習指導要領」に示された「生徒発達の支援」及び，八戸市教育委員会の「学校教育指導の方針と重点」の「幼･保･こ，小，中，高校の連携の推進」を受けて，八戸市が実践している「小・中ジョイントスクール推進事業」の「授業づくり」「居場所づくり」「絆づくり」の視点（指導方法等）を確認する。また，中学校区の小・中学校における共通実践の取組や９年間を見通した実践事例をもとに，生徒の学ぶ意欲を高める工夫を研究するとともに，各学校で情報を共有し，指導に生かす。

○研究内容

ア　生徒の学ぶ意欲を高める工夫について実践情報を収集し，市内で共有する。

イ　『主体性』を高めるための教育活動や実践をするにあたり，教頭としてどのように関わるか情報を収集する。

○これまでの成果と課題

八戸市は小･中連携活動である「小･中学校ジョイントスクール推進事業」を展開している。コロナ禍で計画どおりに進まない中にあっても「あいさつ運動の共同実施」や１人１台端末を活用したオンラインによる小・中学校間「授業参観や交歓会」等の実施が報告されている。各校の教頭が窓口となって教職員に適切な助言をしながら進めており，子どもたちの学ぶ意欲や教職員の研修意欲を高めていることが，データのとりまとめから明らかになった。

一方，コロナ禍の中での研究のため，データが一部の実施校によるものという課題がある。

○研究方法

各校からのアンケートを行い，活動状況について情報収集を行ったのち，情報共有を重ねながら学校運営の一助となるツール作成に取りかかる。

東津軽郡支部

組織と活動計画

広報委　赤田季哉

去る４月14日，東津軽郡小・中学校教頭会第１回研修会・全員協議会において，令和４年度の本会組織及び事業計画が次のように決定した。

１．組織（会員14名）

会長	佐々木　卓	小湊小
副会長	佐藤淳哉	三厩中
事務局長	蒔苗浩正	山口小
書記会計	〃	
監事	乳井秀樹	小湊中
〃	中津大輔	蓬田中
県調査委員	澤田　基	蟹田中
県広報委員	赤田季哉	今別小
研究委員	工藤寛之	東　小
郡研究委員	加藤日寿	東平内中
〃	山内明人	西平内中
〃	花田一仁	蟹田小
〃	竹内裕樹	今別中
〃	大向隆志	蓬田小
〃	古川　衛	三厩小

２．活動計画

4．14　第１回研修会・全員協議会
- 令和４年度研究の概要説明
- 令和４年度研究の進め方の確認

6．10　第２回研修会
- 令和４年度の研修内容等の確認
- 中学校区で学校課題解決のための組織・運営に関する課題の洗い出し

7．27　第３回研修会
- 組織・運営に関する取組の実態把握
- 第４回研修会（レポート）について

11．18　第４回研修会
- 今年度の研究のまとめ
  （実践研究レポートの発表と協議，成果と課題のまとめ）
- 研究集録編集について

1．30　第５回研修会・監査会
- 県広報誌及び提出原稿を基にした本年度の研究内容の確認
- 次年度の研究主題，研究内容等確認
- 次年度の研究の進め方の検討
- 令和４年度監査

３．研究の概要

⑴　研究主題（３年目／３年計画）

教職員個々の資質・能力の向上により学校組織を高めるための教頭の役割
～学校区における教育課題解決への取り組みを通して～

⑵　研究のねらい
- 教職員個々の資質・能力の向上を図り，学校組織を高めるための教頭としての果たすべき役割を明らかにする。
- 各校の学校課題解決のために，教育活動（研修等）への教頭の関わり方・働きかけについて，実践を通して明らかにする。

⑶　研究内容

①第12期，令和４年度の研究の概要，進め方の確認

②実践研究グループ（中学校区）ごとの研究について

③各校における学校課題解決に向けた取組について

④グループの研究の評価とまとめ(成果と課題)

西北支部

組織と活動計画

広報委　鳥谷部淳也

西北小中学校教頭会は，新型コロナウイルス感染予防の観点から，今年度の総会も例年より時間を短縮して，４月28日に金木公民館において開催された。総会では，令和３年度事業報告・会計監査報告が行われ，その後，今年度の役員・事業計画・予算について話し合われた。

本年度の会員数は，小学校は昨年度と同じ32名，中学校は統合により１名減の18名の計50名である。

１．組織

会長	新岡　省	鰺ヶ沢中
副会長	出町　雄	いわさき小
〃	蒔苗尚文	中里中
〃	外崎晴弘	武田小
監事	蒔苗勝久	五一中
〃	二階幸喜	五四中
幹事(庶務)	岩谷博喜	向陽小
〃（会計）	石岡靖仁	車力中
研究委員長	三橋孝行	小泊小
調査委員長	野呂千尋	小泊中
広報委員長	鳥谷部淳也	修道小

理事

つがる地区	野呂　寿	稲垣小
〃	三浦博明	森田小
鰺ヶ沢地区	新岡　省	鰺ヶ沢中
深浦地区	相馬智子	大戸瀬中
五所川原地区	野上新二	三輪小
〃	外崎和弘	五二中
板柳地区	尾崎修一	板南小
中泊地区	葛西清二	薄市小
鶴田地区	岩井　理	鶴田中

２．事業計画

令和４年

４．28	西北小中学校教頭会総会・委員会組織会
６．14	第１回役員研修会
８．19	夏季研修会
10．11	第２回役員研修会

令和５年

１．20	冬季研修会
２．27	第３回役員研修会，監査会
３．28	第４回役員研修会

３．各委員会の活動計画

【研究委員会】

◇研究主題

「学校と地域との連携・協働を推進する教頭の役割」

◇研究概要

令和２年度に行った実態調査を再度行い，その後の変化をとらえるとともに，現状の成果と課題を明らかにしていく。

◇研究の進め方

①令和２年度に実施したアンケートと同じアンケートを実施し，比較・検討する。

②その結果を受けて更なる実態調査をし，オンライン学習支援の在り方について成果と課題を明らかにする。

【調査委員会】

◇アンケート・調査等

・全国web個人調査，県教頭独自調査のアンケート依頼

・アンケート回収，調査のまとめと報告

・西北小中学校教頭会研究紀要への原稿提出

【広報委員会】

◇広報活動

・県小中教頭会会報『あおもり』の原稿作成（114号，115号，116号）

・西北小中学校教頭会研究紀要の編集

・今年度も昨年度同様，紀要をＤＶＤ化する。

南地方支部

組織と活動計画

広報委　對馬　聖

南地方小中学校教頭会は，４月15日に田舎館村中央公民館において令和４年度の総会を行った。５名の来賓の方々のご出席を賜り，代表して中南教育事務所所長小舘孝浩様に祝辞をいただき，開催することができた。諸報告と令和４年度の事業計画・予算についての審議，役員選出が行われ，今年度の活動をスタートさせた。

総会終了後の第１回研修会では，今年度の研究計画について意見交換を行った。

今年度の南地方支部の会員数は，前年と同じ28名である。

１．組織（会員28名）

会長	棟方仁人	黒石中
副会長	成田和弘	松崎小
〃	館山知昭	平賀東中
監事	山本光	碇ヶ関小
〃	長内和生	平賀西中
〃	古川一夫	尾上中
事務局長	小山内徹	黒石東小
事務局次長	山口徹	大鰐小
会計主任	比内倫子	六郷小
会計	須藤和貴	大坊小

＜各専門委員会＞

○研究委員会

委員長	鳴海博史	大鰐中
副委員長	澁谷恭司	田舎館小

○調査委員会

委員長	八木橋千佳子	常盤小
副委員長	遠藤信行	竹館小

○広報委員会

委員長	對馬聖	柏木小
副委員長	藤田丞	明徳中

２．事業計画

（令和４年）

4月15日　総会
5月 6日　第１回理事研修会
17日　春季研修会
6月17日　第２回理事研修会
8月17日　夏季研修会
9月 7日　第３回理事研修会
11月18日　秋季研修会

（令和５年）

2月16日　第４回理事研修会
3月28日　監査会　第５回理事研修会

３．研究の概要

全国公立学校教頭会第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む　魅力ある学校づくり」の第１課題「教育課程に関する課題」について研究を進めており，今年度は４年次となる。

⑴　研究主題

「小中連携を推進するための教頭の役割について」

～小中連携の再構築

南地方の今後の取り組むべき今後の方向性～

⑵　研究のねらい

①各中学校区の小中連携実践をどう改善し，どう継続すべきかの方策を探る。

②小中連携推進に際しての教頭の役割において，求められることを追究する。

⑶　研究の内容

令和３年度の最終報告（各中学校区の実践に対する検証を行った結果）を受けて，小中連携を再構築していくためのより良い工夫や，教頭の役割や関わり方について明らかにする。

４．各専門委員会の事業内容

○研究委員会

上記研究主題に基づいた研究活動

○調査委員会

研究委員会や県教頭会調査委員会と連携した調査活動

○広報委員会

県小中学校教頭会会報の原稿依頼や執筆と各研修会の記録のまとめ

上北地方支部

組織と活動計画

広報委　千　葉　哲　也

去る５月２日，上北地方小中学校教頭会第65回定例総会・研修会を予定していたが，コロナ禍であることを鑑みて開催を見送り，書面決議において令和４年度の組織及び事業計画を次のとおり決定した。

１．組織（会員72名）

会　　長	今　泉　勝　徳	十和田東中
副 会 長	松　山　　勉	下田小
〃	太　田　　健	七戸中
〃	菊　地　弘　篤	十和田一中
〃	竹ケ原　英　樹	野辺地小
監　　事	木　津　淳　一	松陽小
〃	小　林　忠　輝	上北小
理　　事	上原子　孝　始	十和田南小
〃	五十嵐　康　彦	三沢五中
〃	竹ケ原　英　樹	野辺地小
〃	太　田　　健	七戸中
〃	松　山　　勉	下田小
〃	中　村　弘　美	横浜小
〃	小比類巻　英夫	上北中
〃	中　村　大　介	六戸小
〃	田　中　　穣	千歳平小
研修委員長	矢　﨑　美香子	甲地中
研 修 委 員	向中野　純　子	百石中
〃	一　戸　稔　彦	北園小
〃	佐久間　宗　徳	六ヶ所一中
広報委員長	千　葉　哲　也	三本木中
広 報 委 員	二本柳　賢　正	大曲小
〃	千　曳　健　二	東北中
〃	清　野　正　光	馬門小
事 務 局 長	山　田　勇　一	七百中
事 務 次 長	原　田　英　治	天間林小
会　　計	中　野　睦　子	洞内小
〃	坂　本　久美子	上久保小

２．おもな活動計画

4．19　第１回定例協議会・専門委員会
5．　2　第65回定例総会・研修会（書面決議）
5．26　第２回定例協議会・専門委員会
6．23　第１回研修委員会
9．　8　第３回定例協議会・専門委員会
10．20　第４回定例協議会・専門委員会
11．16　第58回上北地方小中学校教頭会研究大会
12．15　第２回研修委員会
1．19　第５回定例協議会・専門委員会
2．28　第６回定例協議会・専門委員会・監査会・事務引継会

３．研究計画

⑴　研究主題
『教職員の資質向上と職務意識の高揚』
（３年次）

⑵　主題設定の理由
これからの教育課題として，48歳以上の教員が半数を超えていることや学校の小規模化が進んでいること等があげられ，これまでの教育実践の蓄積をスムーズに継承できにくい状況にある。また，いじめ防止対策をはじめとする児童生徒を守り支え安心して学ぶことができる教育環境づくり，健康長寿県を目指した児童生徒の健康づくり，インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育や地域資源を生かした環境教育の推進等，様々な課題が山積みになっている現状にある。
そこで，児童生徒一人一人にとって「未来を生きる力を安心して育み，魅力あふれる学校」を保障するために，教頭の役割はいかにあるべきかを探っていきたい。

⑶　研究内容
①東地区：教職員の服務に関すること
②西地区：教職員の専門家としての意識高揚に関すること
③南地区：教職員の研修に関すること
④北地区：教職員の協働体制の構築について

⑷　研究の方法と研究計画
①東・西・南・北の４地区に分かれ，各地区の共同研究とする。
②研究主題は４地区統一とする。副題は，東西南北地区ごとに焦点を絞って設定する。
③地区ごとに研修会を開催し，研究成果は広報誌「教頭上北」にまとめる。

下北支部

組織と活動計画

広報委　工 藤 貴 史

今年度は，例年どおり，部会研修会等を実施する予定である。

１．組織

会　長	横濵慎一	三田小
副会長	竹川康則	むつ中
監　事	皆川洋介	正津川小
〃	木村孝広	風間浦中
事務局長	田中健一	大畑小
研　究	杉原憲一郎	大畑中
調　査	山本洋史	関根小
広　報	工藤貴史	奥戸小
理　事	畑中　勤	川内小
〃	工藤秀吾	大平中
〃	田中道介	大間小
〃	服部　秀	東通中
〃	森　恭	風間浦小
〃	伊藤　輝	佐井中

２．事業計画

4．25　定期総会・第１回部会研修会
6．17　第２回部会研修会
6．28　第１回理事・事務局研修会
7．25　第３回部会研修会
9．22　秋季研究大会
12．19　第２回理事・事務局研修会
2．27　第３回理事・事務局研修会
3．23　第４回理事・事務局研修会

３．研究計画

全国統一研究課題（Ｒ２～４）
「未来を生きる力を育む　魅力ある学校づくり」
キーワード：自立・協働・創造

下北支部研究課題
「教育環境整備に関する課題」

⑴　研究組織

①組織

部会長	山田武弘	奥内小
副部会長	畑山元康	近川中

②研究組織（会員数）
〔小学校〕18 名　〔中学校〕13 名
〔合計〕31 名

⑵　研究活動

①全国共通研究課題と青森県小中学校教頭会の研究課題とつながる「研究の手引き」を基に，研究の視点を明確にし，一定期間を通して研修を進める。

②担当課題である「教育環境整備に関する課題」で研究を進める。研究課題の推進を図るため，各校へアンケートを依頼し，集計と成果・課題等のまとめを通して，昨年度からの変容を明らかにするとともに，課題解決と推進に向けた教頭としての役割について明らかにしていく。

⑶　研修計画

昨年度の研究の成果・課題等を踏まえ，３回の研修会による各校の実践事例の紹介，実態把握，改善策を話し合う協議会の実施，併せて随時のアンケート調査を継続して研究を進める。

三戸郡支部

組織と活動計画

広報委　工 藤 和 宏

去る 4月26日，令和４年度三戸郡小中学校教頭会定期総会が南部町総合保健福祉センターで開催され，次のように役員組織及び事業計画が決定された。

１．組織（会員35名）

会　　長	越 後 俊 之	五戸中
副 会 長	中 島 　 寛	杉沢中
〃	前川原 舞 子	新郷小
監　　事	大 西 一 史	田子中
〃	大 島 朋 幸	五戸小
研究部長	久 保 慶 喜	田子小
調査部長	元 澤 朋 子	新郷中
広報部長	工 藤 和 宏	杉沢小
事務局長	鹿 原 秀 章	道仏小
事務局次長	山 口 雅 裕	南部中
理　　事	鎌 田 一 寿	三戸小
〃	越 後 俊 之	五戸中
〃	大 西 一 史	田子中
〃	山 口 雅 裕	南部中
〃	梅 内 伸 司	階上小
〃	元 澤 朋 子	新郷中

２．事業計画

4月12日　第１回役員研修会
　　26日　定期総会・研修会
6月 9日　第２回役員研修会
10月 7日　第３回役員研修会
11月11日　三戸郡小中学校教頭会研究発表大会
12月12日　第４回役員研修会
2月28日　第５回役員研修会・監査会
　　会誌「坂道」編集発行
3月23日　第６回役員研修会

３．研究活動の概要

⑴　研究主題

「特別支援教育の充実に向けて
教頭としてどのようにかかわればよいか」
～通常の学級における
配慮が必要な児童生徒のために～

⑵　研究のねらい

本支部では，研究主題「特別支援教育の充実に向けて教頭としてどのようにかかわればよいか」について，３年計画による調査・研究・考察・整理をとおして，教頭として果たすべき役割を明らかにしていく。

⑶　研究仮説

郡内の現状を踏まえると，児童生徒の未来を生きる力を育む魅力ある学校づくりを進めるには，特別支援教育の充実が必要であると思われる。そして，その具現化のためには，教頭として，特に，通常の学級における児童生徒のための校内体制や外部との連携に効果的にかかわっていくことが大切であると捉えている。

そこで，通常の学級における配慮が必要な児童生徒への対応について，教頭の望ましいかかわり方を明らかにすることによって，特別支援教育の充実を図ることができると考える。

⑷　研究の視点

・１年次（令和２年度）
　各町村内において，通常の学級における特別支援教育に関する教頭のかかわり方についての実態を把握するとともに，情報交換をとおして課題解決のための方策を探る。
・２年次（令和３年度）
　校内体制や支援方法の工夫を図るための効果的な教頭のかかわり方について明らかにする。
・３年次（令和４年度）
　外部機関や保護者との連携における効果的な教頭のかかわり方について明らかにする。

⑸　研究体制

〇各町村の研究状況の把握や研究情報の周知など，役員会や研究部会を利用して進めていく。
〇町村それぞれを１ブロックとし，各ブロック単位（各町村単位）で研究を進めていく。（研究ブロックは昨年度までと同じ）
〇ブロック内各校教頭の「協働性」を重視するために，ブロック単位の共同研究を進めていく。

今年度も昨年度と同様に各町村内の実態把握や情報共有をとおして，成果と課題をまとめるとともに，３年間の研究の総括を行う。

令和４年度

会　員　名　簿

青森市小支部

本堂　薫	青森市立	造道小
木村武紀	〃	浪打小
徳差　豪	〃	佃小
中村徳郎	〃	合浦小
山﨑　敏	〃	堤小
工藤あゆみ	〃	莨町小
横山由紀夫	〃	橋本小
小向公一	〃	浦町小
山下征子	〃	長島小
大水規子	〃	古川小
佐藤　健	〃	甲田小
立崎智康	〃	千刈小
鷲尾　厚	〃	篠田小
東　真史	〃	沖館小
奥崎健二	〃	油川小
瀬下高志	〃	三内小
逢坂英人	〃	金沢小
髙坂隆幸	〃	荒川小
伊藤永子	〃	高田小
岩森美代子	〃	東陽小
山舘伸太郎	〃	原別小
松尾浩昭	〃	浜館小
成田博樹	〃	筒井小
成田憲一	〃	横内小
柴田幸一	〃	新城小
三上功大	〃	北小
石澤照英	〃	野内小
築舘雅樹	〃	浜田小
木立啓司	〃	小柳小
安田博文	〃	泉川小
市橋慶録	〃	浪館小
福士竜也	〃	幸畑小
太田　純	〃	大野小
荒谷俊治	青森市立	戸山西小
鳴海良子	〃	筒井南小
鷲尾　司	〃	新城中央小
津嶋一史	〃	三内西小
八木橋直哉	〃	浪岡南小
桜庭幸久	〃	浪岡北小
水谷和憲	〃	女鹿沢小
梅津克文	〃	浪岡野沢小
和田可矢毅	〃	本郷小

青森市中支部

武井まゆみ	青森市立	浪打中
高瀬一元	〃	佃中
相馬和実	〃	古川中
目時聖児	〃	沖館中
工藤哲也	〃	油川中
石川　慎	〃	西中
熊澤健一	〃	東中
佐藤　研	〃	筒井中
里村裕歳	〃	横内中
松浦巨樹	〃	横内中合子沢分教室
佐藤由孝	〃	荒川中
栃丸庄司	〃	荒川中金浜分教室
工藤雅人	〃	新城中
木村文俊	〃	甲田中
葛西富生	〃	浦町中
平澤郁夫	〃	造道中
横山尚子	〃	戸山中
加福欣克	〃	北中
大野将臣	〃	三内中
村田正茂	〃	浪岡中
生田勝幸	学校法人	青森山田中

弘前地区小支部

田村　修	弘前市立	自得小
地主尚子	〃	高杉小
佐藤信孝	〃	船沢小
櫻庭巨樹	〃	三省小

工藤直樹	弘前市立	致遠小
齊藤伸弥	〃	城東小
村元　治	〃	福村小
工藤雅督	〃	豊田小
田澤安昭	〃	堀越小
工藤武久	〃	文京小
工藤貴士	〃	千年小
地主　司	〃	大和沢小
佐藤貴史	〃	小沢小
田中　剛	〃	青柳小
相澤純子	〃	東目屋小
宮本隆嘉	〃	和徳小
櫻井光彦	〃	時敏小
沖島貴久	〃	城西小
田中公寿	〃	第三大成小
小山内早苗	〃	朝陽小
森谷卓生	〃	桔梗野小
宮崎研也	〃	石川小
猪股　健	〃	西小
須藤育生	〃	松原小
工藤佳世子	〃	東小
鈴木直大	〃	北小
斉藤雅子	〃	大成小
石田雅昭	〃	裾野小
福士　浩	〃	新和小
三ツ橋一弘	〃	岩木小
佐藤志保子	〃	常盤野小
桶田義和	〃	相馬小
葛原毅爾	西目屋村立	西目屋小
葛西久司	弘前大学教育学部	附属小

弘前市中支部

岩間一人	弘前市立	新和中
千葉暁生	〃	船沢中
工藤暢之	〃	東目屋中
後藤光生	〃	第一中
境　義一	〃	第二中
須郷祐一	〃	第三中
奈良篤志	〃	第四中
成田茂樹	弘前市立	第五中
前田達哉	〃	石川中
三上哲矢	〃	北辰中
三上剛司	〃	裾野中
工藤慎也	〃	南中
棟方貴文	〃	東中
葛原秀人	〃	津軽中
相馬秀樹	〃	常盤野中
三上俊英	〃	相馬中
丹藤博之	弘前大学教育学部	附属中

八戸市小支部

松坂優侍	八戸市立	八戸小
古舘直樹	〃	城下小
皆川智希	〃	吹上小
上柿尊志	〃	長者小
淡路浩志	〃	図南小
大江雅之	〃	中居林小
相馬昌之	〃	柏崎小
佐々木寿子	〃	小中野小
根城善直	〃	江陽小
権代一徳	〃	湊小
熊谷　一	〃	青潮小
小笠原一彦	〃	白銀小
吉田　悟	〃	白鴎小
石岡茂樹	〃	白銀南小
舘　朋美	〃	町畑小
小坂一博	〃	鮫小
山口将貴	〃	種差小
田名部純一	〃	大久喜小
松田典孝	〃	金浜小
蛭田　健	〃	根城小
種子和憲	〃	白山台小
階上高広	〃	西白山台小
佐藤満司	〃	江南小
山本光晴	〃	田面木小
石丸昌克	〃	下長小
髙橋正之	〃	城北小
小坂智則	〃	高館小

佐々木　義　智	八戸市立	根岸小
嶋　満　昭	〃	日計ヶ丘小
長谷川　徹	〃	是川小
橋本博子	〃	三条小
髙坂正人	〃	西園小
三浦純平	〃	明治小
淡路秀一	〃	桔梗野小
田中　靖	〃	轟木小
若林　保	〃	多賀小
種子麻佐子	〃	多賀台小
松倉良子	〃	豊崎小
豊巻裕史	〃	新井田小
中村雅人	〃	旭ヶ丘小
戸舘典子	〃	南郷小
髙橋祐介	〃	島守小

八戸市中支部

川村隆憲	八戸市立	第一中
髙橋英臣	〃	第二中
三浦勝利	〃	第三中
堀合　貴	〃	長者中
森外勇一	〃	小中野中
佐々木克昌	〃	江陽中
田中静子	〃	湊中
大下　毅	〃	白銀中
松倉知秀	〃	白銀南中
釜石　潤	〃	鮫中
森永洋行	〃	南浜中
鈴木　悟	〃	根城中
柳谷貴広	〃	白山台中
三橋央尚	〃	下長中
長者久保希史子	〃	北稜中
志塚　聡	〃	是川中
永井斉孝	〃	三条中
梅村光江	〃	明治中
佐藤　功	〃	市川中
尾崎元子	〃	豊崎中
吹越文代	〃	大館中
鈴木浩司	〃	東中
堀　直樹	八戸市立	中沢中
須藤修生	〃	島守中

東郡支部

佐々木　卓	平内町立	小湊小
工藤寛之	〃	東小
蒔苗浩正	〃	山口小
花田一仁	外ヶ浜町立	蟹田小
古川　衛	〃	三厩小
赤田季哉	今別町立	今別小
大向隆志	蓬田村立	蓬田小
乳井秀樹	平内町立	小湊中
加藤日寿	〃	東平内中
山内明人	〃	西平内中
澤田　基	外ヶ浜町立	蟹田中
佐藤淳哉	〃	三厩中
竹内裕樹	今別町立	今別中
中津大輔	蓬田村立	蓬田中

西北支部

岩谷博喜	つがる市立	向陽小
白取知佳子	〃	穂波小
澁谷隆行	〃	瑞穂小
三浦博明	〃	森田小
渋谷　真	〃	柏小
野呂　寿	〃	稲垣小
澤田尚希	〃	車力小
北川一静	〃	木造中
佐藤貴行	〃	森田中
鎌田健吾	〃	柏中
加藤博規	〃	稲垣中
石岡靖仁	〃	車力中
金澤央広	鰺ヶ沢町立	西海小
佐々木綾子	〃	舞戸小
新岡　省	〃	鰺ヶ沢中
相澤英知	深浦町立	深浦小
鳥谷部淳也	〃	修道小
出町　雄	〃	いわさき小

大和克彦	深浦町立	深浦中
相馬智子	〃	大戸瀬中
小枝晃嘉	五所川原市立	五所川原小
小笠原崇浩	〃	南小
永原信哉	〃	中央小
小島史靖	〃	栄小
野上新二	〃	三輪小
成田純一	〃	三好小
板谷斉	〃	東峰小
神山ルミ子	〃	松島小
林寛満	〃	いずみ小
今村健児	〃	金木小
岡田節孝	〃	市浦小
蒔苗勝久	〃	五所川原第一中
外崎和弘	〃	五所川原第二中
南公典	〃	五所川原第三中
二階幸喜	〃	五所川原第四中
小笠原茂	〃	金木中
番場亜由美	〃	市浦中
尾崎修一	板柳町立	板柳南小
織田昇	〃	板柳北小
中村規康	〃	小阿弥小
江良武康	〃	板柳東小
尾崎徳哉	〃	板柳中
加藤誠	中泊町立	中里小
外崎晴弘	〃	武田小
葛西清二	〃	薄市小
三橋孝行	〃	小泊小
蒔苗尚文	〃	中里中
野呂千尋	〃	小泊中
蒔苗元紹	鶴田町立	鶴田小
岩井理	〃	鶴田中

南地方支部

近藤正嗣	黒石市立	東英小
比内倫子	〃	六郷小
齋藤匡	〃	黒石小
小山内徹	〃	黒石東小
対馬俊一	〃	中郷中
棟方仁人	黒石市立	黒石中
木村卓	平川市立	金田小
五十嵐陽子	〃	猿賀小
對馬聖	〃	柏木小
須藤和貴	〃	大坊小
石澤勝明	〃	小和森小
成田和弘	〃	松崎小
遠藤信行	〃	竹館小
山口朋子	〃	平賀東小
山本光	〃	碇ヶ関小
古川一夫	〃	尾上中
長内和生	〃	平賀西中
舘山知昭	〃	平賀東中
長内邦彦	〃	碇ヶ関中
髙木禎	藤崎町立	藤崎小
鳴海昭博	〃	藤崎中央小
八木橋千佳子	〃	常盤小
谷川公彦	〃	藤崎中
藤田丞	〃	明徳中
山口徹	大鰐町立	大鰐小
鳴海博史	〃	大鰐中
澁谷恭司	田舎館村立	田舎館小
鎌田寛市	〃	田舎館中

上北地方支部

上村正信	十和田市立	三本木小
一戸稔彦	〃	北園小
上原子孝始	〃	南小
須郷英明	〃	東小
江渡富貴子	〃	西小
三沢正幸	〃	藤坂小
渡辺真路	〃	高清水小
中野睦子	〃	洞内小
木津淳一	〃	松陽小
伊藤鉄正	〃	ちとせ小
高橋敦哉	〃	深持小
簗場恵美子	〃	四和小
田中倫代	〃	沢田小
齋藤佳江	〃	法奥小

工藤博幸	十和田市立	十和田湖小
千葉哲也	〃	三本木中
大野　仁	〃	十和田中
岩田　誠	〃	切田中
船水純子	〃	大深内中
立崎賢一	〃	甲東中
荒井幸子	〃	四和中
今泉勝徳	〃	東　中
菊地弘篤	〃	第一中
二ツ森孝史	県立三本木高校	附属中
山本　治	三沢市立	古間木小
坂本久美子	〃	上久保小
山形貴雄	〃	木崎野小
高橋　誠	〃	岡三沢小
熊澤尚彦	〃	三沢小
栩内康子	〃	三川目小
香賀裕文	〃	おおぞら小
齊藤　保	〃	第一中
天間朋昭	〃	第二中
金澤希代子	〃	第三中
五十嵐康彦	〃	第五中
毛利直樹	〃	堀口中
竹ケ原英樹	野辺地町立	野辺地小
佐藤　忍	〃	若葉小
清野正光	〃	馬門小
栩内一将	〃	野辺地中
佐藤　聡	七戸町立	七戸小
中尾　周	〃	城南小
原田英治	〃	天間林小
太田　健	〃	七戸中
木村英仁	〃	天間林中
津田由紀子	おいらせ町立	百石小
沼尾千恵美	〃	甲洋小
松山　勉	〃	下田小
伊東明子	〃	木内々小
蛯名健一	〃	木ノ下小
向中野純子	〃	百石中
佐藤　豊	〃	下田中
鈴木峰史	〃	木ノ下中
中村大介	六戸町立	六戸小
木村浩二	六戸町立	開知小
二本柳賢正	〃	大曲小
野呂泰弘	〃	六戸中
山田勇一	〃	七百中
中村弘美	横浜町立	横浜小
大竹　旭	〃	横浜中
小林忠輝	東北町立	上北小
矢﨑美香子	〃	甲地小
藤谷　悟	〃	東北小
小比類巻　英夫	〃	上北中
千曳健二	〃	東北中
手代森正輝	六ヶ所村立	泊　小
横濵　健	〃	尾駮小
田中　穣	〃	千歳平小
常田幸宣	〃	南　小
安田泰輔	〃	泊　中
佐久間宗徳	〃	第一中
其田公人	〃	第二中

下北地方支部

伊藤　慎	むつ市立	第一田名部小
中村月美	〃	第二田名部小
横濵慎一	〃	第三田名部小
山田武弘	〃	奥内小
山本洋史	〃	関根小
成田弘美	〃	大平小
大島義弘	〃	大湊小
山本　敦	〃	苫生小
畑中　勤	〃	川内小
關　政明	〃	川内小
田中健一	〃	大畑小
皆川洋介	〃	正津川小
成田浩一	〃	脇野沢小
田中道介	大間町立	大間小
工藤貴史	〃	奥戸小
石川博昭	東通村立	東通小
森　恭	風間浦村立	風間浦小
山田　淳	佐井村立	佐井小
小島一玄	むつ市立	田名部中

竹川康則	むつ市立	むつ中
佐々木浩史	〃	関根中
畑山元康	〃	近川中
工藤秀吾	〃	大平中
阿部俊一	〃	大湊中
齋藤靖浩	〃	川内中
杉原憲一郎	〃	大畑中
佐藤雅布	〃	脇野沢中
南　玲	大間町立	大間中
服部　秀	東通村立	東通中
木村孝広	風間浦村立	風間浦中
伊藤　輝	佐井村立	佐井中
齋藤　浩	南部町立	福地中
中島　寛	〃	杉沢中
相馬直恵	階上町立	赤保内小
鹿原秀章	〃	道仏小
梅内伸司	〃	階上小
榊田航亮	〃	石鉢小
今田華織	〃	道仏中
奥寺　努	〃	階上中
前川原舞子	新郷村立	新郷小
元澤朋子	〃	新郷中

三戸郡支部

鎌田一寿	三戸町立	三戸小
小鹿弘人	〃	斗川小
太田成人	〃	三戸中
橋本満昭	〃	〃
大島朋幸	五戸町立	五戸小
工藤真理美	〃	切谷内小
遠藤ゆみ子	〃	上市川小
佐藤裕一	〃	倉石小
越後俊之	〃	五戸中
川村美樹	〃	川内中
工藤正義	〃	倉石中
久保慶喜	田子町立	田子小
防村和弘	〃	上郷小
石塚直徳	〃	清水頭小
大西一史	〃	田子中
小田島　諭	南部町立	剣吉小
種市英明	〃	名久井小
種市芳文	〃	名川南小
工藤尚樹	〃	南部小
清野　人	〃	向　小
杉若雅也	〃	福田小
工藤和宏	〃	杉沢小
田中秀樹	〃	福地小
嶋守　学	〃	名川中
山口雅裕	〃	南部中

令和３年度 退職者名簿

退職者氏名	退職時勤務校名
神　恭彦	弘前市立新和小学校
福井智明	平川市立松崎小学校
村上昌隆	六ヶ所村立第二中学校
壬生勝則	南部町立名川南小学校

令和３年度 途中昇任・異動者名簿

氏　名	新任校（括弧内は前所属）
梅津克文	青森市立浪岡野沢小学校 （東青教育事務所）
種子和憲	八戸市立白山台小学校 （八戸市子ども支援センター）

１．青森県小中学校教頭会本部役員名簿

役職名	選出支部	氏名	勤務校	〒	学校所在地	電話番号
会長	青森市小	髙坂隆幸	荒川小	030-0111	青森市荒川字柴田92-5	017-739-2244
副会長	青森市小	太田純	大野小	030-0847	青森市東大野一丁目3-1	017-739-8338
〃	青森市中	石川慎	西中	038-0022	青森市浪館字志田36	017-781-0611
〃	上北小中	今泉勝徳	東中	034-0015	十和田市東二十二番町29-1	0176-22-4488
幹事長	青森市小	松尾浩昭	浜館小	030-0916	青森市田屋敷字下り松17	017-742-2141
幹事	青森市小	木村武紀	浪打小	030-0961	青森市浪打一丁目4-1	017-742-3347
〃	青森市中	加福欣克	北中	038-0052	青森市清水字浜元135-1	017-754-2002
研究委員長	青森市中	松浦巨樹	横内中合子沢分教室	030-0134	青森市合子沢字松森265	017-738-2054
調査委員長	青森市小	安田博文	泉川小	038-0022	青森市浪館字泉川1-1	017-739-2111
広報委員長	青森市小	柴田幸一	新城小	038-0042	青森市新城字平岡266-14	017-788-0713
事務局長	事務局	二唐香織	事務局	030-0822	青森市中央二丁目17-13	017-723-6282
事務局次長	青森市中	目時聖児	沖館中	038-0002	青森市沖館五丁目19-1	017-781-0855

２．支部選出役員名簿

役職名	選出支部	氏名	勤務校	〒	学校所在地	電話番号
監事	青森市中	熊澤健一	東中	030-0923	青森市八幡林字熊谷28	017-726-2135
	南地方	山本光	碇ヶ関小	038-0101	平川市碇ヶ関三笠山127-23	0172-45-2311
	八戸市小	小笠原一彦	白銀小	031-0822	八戸市白銀町字大久保道1-1	0178-33-1021
代議員	県役員	石川慎	西中	038-0022	青森市浪館字志田36	017-781-0611

３．理 事 名 簿 （各支部の上段は支部長を，下段は事務局長を示す。）

支部	氏名	勤務校	〒	学校所在地	電話番号
青森市小	髙坂隆幸	荒川小	030-0111	青森市荒川字柴田92-5	017-739-2244
	奥崎健二	油川小	038-0059	青森市油川字船岡36	017-788-1202
青森市中	高瀬一元	佃中	030-0963	青森市中佃二丁目7-1	017-742-4251
	熊澤健一	東中	030-0923	青森市八幡林字熊谷28	017-726-2135
弘前地区小	三ツ橋一弘	岩木小	036-1331	弘前市五代字前田451	0172-82-3008
	工藤貴士	千年小	036-8127	弘前市小栗山字川合119-7	0172-87-2012
弘前市中	後藤光生	第一中	036-8021	弘前市和徳町363-13	0172-32-3949
	千葉暁生	船沢中	036-8382	弘前市富栄字浅井名1	0172-96-2130
八戸市小	小笠原一彦	白銀小	031-0822	八戸市白銀町字大久保道1-1	0178-33-1021
	古舘直樹	城下小	031-0072	八戸市城下四丁目3-42	0178-44-3022
八戸市中	髙橋英臣	第二中	031-0077	八戸市長根三丁目23-1	0178-22-2297
	川村隆憲	第一中	031-0003	八戸市吹上二丁目17-1	0178-44-2215
東津軽郡	佐々木卓	小湊小	039-3321	平内町小湊字後苞15	017-755-4573
	蒔苗浩正	山口小	039-3363	平内町山口字小沢20-1	017-755-3205
西北	新岡省	鰺ヶ沢中	038-2731	鰺ヶ沢町赤石町大和田27	0173-72-3038
	岩谷博喜	向陽小	038-3143	つがる市木造日向62-1	0173-42-2063
南地方	棟方仁人	黒石中	036-0333	黒石市柵ノ木四丁目1	0172-52-3703
	小山内徹	黒石東小	036-0338	黒石市春日町70	0172-52-3880
上北地方	今泉勝徳	東中	034-0015	十和田市東二十二番町29-1	0176-22-4488
	山田勇一	七百中	033-0071	六戸町犬落瀬字権現沢54-41	0176-55-2641
下北	横濵慎一	第三田名部小	035-0021	むつ市田名部赤川ノ内並木14-196	0175-22-1267
	田中健一	大畑小	039-4401	むつ市大畑町伊勢堂1-1	0175-34-2237
三戸郡	越後俊之	五戸中	039-1524	五戸町豊間内字地蔵平1-276	0178-62-2228
	鹿原秀章	道仏小	039-1201	階上町道仏字外窪21-1	0178-89-2015

令和４年度　青森県小中学校教頭会行事予定

月	日	曜	行　　事	場　　所
5	18	水	第１回理事研修会	青森県総合社会教育センター
			専門委員会組織会･研修会	
8	5	金	夏季研修会（理事・研究委員会）	青森県総合社会教育センター
8	26	金	４団体連絡協議会	ウエディングプラザアラスカ
12	7	水	第２回理事研修会	青森県総合社会教育センター
			冬季研修会	
2	22	水	第３回理事研修会	青森県総合社会教育センター
3	16	木	定期監査会	青森県総合社会教育センター

令和４年度　全国・東北地区教頭会関係行事

月	日（曜）	行　　事	場　　所
5	26(木)	第１回東北地区教頭会理事研修会	岩手県盛岡市
6	3(金)	全国公立学校教頭会定期総会	オンライン
7	7(木)	全国要請部長会	オンライン
	8(金)	第１回全国研究部長会	オンライン
	28(木)～29(金)	第64回全国公立学校教頭会研究大会岩手大会	岩手県盛岡市
9	2(金)	第１回全国公立学校教頭会理事会	東京都：都市センターホテル
12	2(金)	第２回全国研究部長会	オンライン
	9(金)	第２回全国公立学校教頭会理事会	オンライン
1	26(木)～27(金)	第２回東北地区教頭会理事研修会	岩手県盛岡市
2	10(金)	中央研修大会	オンライン
3	3(金)	第３回全国公立学校教頭会理事会	東京都：都市センターホテル

編集後記

会報「あおもり」第114号をお届けします。今年度も全国の新型コロナウイルス感染者数の増加が続き，本県でも複数のクラスターが発生するなど，その対応にご苦労されている中，各支部より原稿をお寄せいただきありがとうございました。

さて，年度が新しくなり，広報委員も新たなメンバーで活動を進めているところです。今年度は７月に114号，12月に115号，３月に116号を発行する計画としました。県教頭会，各支部の教頭会の活動の様子を計画的に掲載して参りますので，引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

新たなメンバーで始まった１学期を終え，一息ついていることと思います。新しくなった人材育成評価制度への対応や，新型コロナウイルス感染防止対策等，今後も多忙な日々が続くと思われますが，健康に留意され，御活躍されることを願っています。

青森県小中学校教頭会会報 あおもり　第114号　令和４年７月19日　印刷発行　発行所　青森県小中学校教頭会　編集責任者　広報委員会　印刷所　（有）アート企画